
真夜中のKiss

ランデブー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真夜中のKiss

【Nコード】

N8810A

【作者名】

ランデブー

【あらすじ】

大好きな彼に会えるのは、週に一度だけ。真夜中に会える。

（前書き）

短編恋愛小説2作目！

二人の名前を記号で表わします。

K i S Sシリーズでは、メインの男性は△△、女

性は○○。好きな人の名前と自分の名前を入れて、楽しんでくださいね！（＾Ｏ＾）／

ハア……。

自然に溜息がでる。

私は、頑固な父親のせいで彼氏の一人もデキナイ。

父曰く、可愛い娘が素性も知らない男と付き合うなんてけしからんらしい。

娘を汚されるのはヤダ！

という考えに、いつも辿り着いてしまう父。

心配してくれるのは有難いんだけど、お父さんは過保護だよ。

もう私は高校生で、仕事をしてても許される年齢なのに、バイトはするとか、門限は六時とか、私を子供扱いするんだ。

だから、まともな恋愛なんて今までした事がない。

「そろそろ時間ね……」

☆

時刻は午後十一時。

空は真っ黒に染まり、辺りも薄暗く、人通りがない。そんな時間帯に、私は一人で歩いていた。

何故私がこんな時間に外を歩いているのか。それは、彼に会うためだから。

お父さんに内緒で会えるのは、真夜中しかない。

週に一度だけ、彼と大切な時間を共に過ごす。

彼はいつもどおり、公園の中央にある噴水の前にあるベンチに座っていた。

「今晚は、△△くん。一週間会えなくて、寂しかったよ」

私は彼の顔を見てホッとして、イキナリ抱き付く。

「俺も会いたかったよ。○○の可愛いお口に、K i s s デキナイから寂しかった」

彼は、優しくほほ笑みながら言った。

「△△くんって、K i s s 好きだよね。私はいつも、△△に甘えたいのにな」

そう言って、彼に私の気持ちをストレートに伝える。

「ごめん…気付かなくて」

彼はそれだけ言うと、私の頭を優しく撫でた。

そして、静かな時間が始まる。二人の、大切な時間が……。

「……」

「……」

もう十分ぐらい抱き合っていた。彼は、私の頭を優しく撫でている。これだけで幸せだ。彼と一緒にいるだけで、心がはずむ。

「……なあ、○○。俺は、ちゃんと言ったほうが良いと思うんだ」
彼は長い沈黙を破った。

「何が、ちゃんと言ったほうが良いの？ ハッキリ言ってよ」
私は、改まって何の話をするんだろう？ と思った。

「じゃあ、ハッキリ言うね。○○が俺と付き合ってることを、親に言ったほうが良いと思うんだ」
彼から出た言葉は信じられないモノだった。

「えっ……△△くん、何言ってるの？」
私は抱き付くのやめて、彼の顔を見た。

彼は鋭い目をしていて、真剣な顔をしていた。

「俺は○○の事が好きだ。好きだから、一緒にいたいから、親に言ったほうが良いと思うんだ」

「……」

「俺は真剣なんだ。○○を愛してるんだ。この先ずっと、手を握って一緒にいたい……死ぬまでずっと」

「……死ぬまで？」

「ああ。辛いことがあっても、悲しいことがあっても、俺は○○を

守るよ」

「……」

「……大好き」

私たちは、真夜中のKissをした。

（後書き）

前書きでも言ったんですが、K i s sシリーズは続けていこうと思います。
今回の話の続きを書くか、別の話を書くか悩めますので、御感想と一緒にどうすればいいのか書いてくれたら嬉しいです。〇（＾ー＾）〇

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8810a/>

真夜中のKiss

2010年12月31日15時07分発行